

川瀬産業



川瀬社長

川瀬産業は、使用済みプラスチック容器(ポリ容器・ポリドラム・ポリタンク)のさらなる回収拡大とリサイクルを推進、持続可能な社会に貢献していく。同社は主に化学業界から発生する使用済みポリエチレン(P.E.)やポリプロピレン(P.P.)をメインに、プラスチックのマテリアルリサイクルを実施。最大の特徴が化学を熟知する視点から再資源化を行っている点だ。独自の排水処理設備を完備し、マテリアルリサイクルが困難な薬剤付着容器なども洗浄・粉碎し、再資源化できるのが強み。

同社は創業1966年と長い実績を誇る。500社以上の化学系会社と契約し独自のリサイクルシステムを構築、引き取り先にリサイクル製品として戻すクローズドリサイクルのほか、独自ブランド「リプラギ」として製品化している。今期は売上高30億円を見込む。現在は本社工場(大阪府貝塚市)、四国工場(香

化学熟知する視点に強み 静岡を増強、東日本拠点に

川瀬(三豊市)、静岡工場(磐田市)で月約1000トンの使用済み容器を回収、再資源化する。

注目はそのネットワーク。P.E.やP.P.以外の使用済み製品についてもリサイクル処理先を紹介、ワンストップでの取り組みも果たす。サステナビリティ経営が求められる近年、同社の取り組みへの関心も高まり「EV向けLiBメーカーや投資事業会社などからも評価されている(川瀬幸久社長)」という。引き合いも増えており、さらなる体制の充実も図っている。

本社工場では洗浄力を上げ、再資源化の品質向上を図ったほか、静岡工場では今年から洗浄工程を増強、一部未洗浄容器の処理も開始、受け入れ体制を強化。併せてペレット化能力も倍増し(今後はさらに設備増強し、製品化にも力を入れていく)。(同)方針で、将来は本社工場に匹敵する拠点として、東日本地区の顧客ニーズに応えていく。

今後は輸入品にも注目し、海外薬品メーカーや輸入商社、港湾荷役、小分け会社とのネットワークにも力を入れていく。